

副詞の修飾機能に関する一考察

A Consideration on the Modification Functions of Adverbs

鄭 欣 悅
ZHENG Xinyue

In modern Chinese, the adverb is one of the functional words, and its main grammatical function is to act as adverbial modifiers. However, on the other hand, there is also the phenomenon of the adverb acting as an adnominal modifier —— examples of its use have been confirmed in the Chinese elementary school national language textbook “*Xiaoxue Yuwen*” —— which can be seen as one of the basic grammatical functions of the adverb (not as an exception). In this paper, for all the adverbs in the Dictionary of “*Xiandai Hanyu Cidian*” (7th edition), the author selects the adverbs that can be used as adnominal modifiers from the examples in the corpus, analyzes the characteristics of these adverbs, and examines their relationship with other sentence elements. This paper also considers the question of markedness.

キーワード：副詞、修飾関係、文法機能、有標性

Keywords: Adverbs, Modification relationship, Grammatical function, Markedness

1. はじめに

1.1 基本文法の定義と『小学語文』

副詞の文法的機能のうち最も重要な役割は、状語¹として述語成分を修飾することである。例えば、朱(1982: 192)「副詞は状語にしかなれず、定語²や述語や補語にはなれない。」、劉(2001: 210)「副詞の主な文法的機能は状語になることである。副詞は動詞や形容詞を修飾することができ、文の全体を修飾することもできる。」、北京大学(2012: 266)「副詞は虚詞で、文法機能はきわめて限られており、状語になるだけで他の文法成分になれない。」等、多くの基本の文法書において、副詞の文法的機能は状語に限定されている。

¹ 中国語文法では、述語成分(動詞や形容詞)を修飾するものを“状语”と呼ぶ。日本語では、連用修飾語に相当する。以下、本稿では「状語」と表記する。

² 中国語文法では、名詞(フレーズ)を修飾するものを“定语”と呼ぶ。日本語では、連体修飾語に相当する。以下、本稿では「定語」と表記する。

しかし、『小学語文』人教版³(2002)には、『現代漢語辞典』(第7版)で副詞に分類されている語が、明らかに定語になる文が散見される。

以下、その具体例を(1—3)に挙げる。(「修飾語(定語)+被修飾語(中心語)のフレーズ」には下線を付し、修飾語である副詞は太字で示す。)

(1)白天，它这样淘气地陪伴我；天色入暮，它就在父母再三的呼唤声中，飞向笼子，扭动滚圆的身子，挤开那些绿叶钻进去。
(『珍珠鸟』；『小学語文』五年級上)

(昼間、彼はこのように茶目つ氣たっぷりに私のそばに付きまとっていて、空が暮れると、両親の再三の呼び声の中、ケージに向かって飛び、丸い体をねじって、緑の葉を押しのけて潜り込む。)

(2)那里的天比别处的更可爱，空气是那么清鲜，天空是那么明朗，使我总想高歌一曲，表示我满心的愉快。
(『草原』；『小学語文』五年級下)

(その空は他の場所の空よりも愛おしく、空気がとても澄んでいて、空がこんなにも明るいので、私はいつも高らかに歌いたくなり、私胸いっぱいの喜びを表している。)

(3)经过进一步的考察，他发现在长江流域有大量第四冰川活动的遗迹。
(『奇怪的大石头』；『小学語文』三年級上)

(一步進んだ考察を経て、彼は長江流域に大量の第4氷河活動の遺跡があることを発見した。)

例文(1)において、“再三”(何回も、何度も)は、名詞フレーズの“呼唤声”(呼び声)を修飾していることから、定語といえる。例文(2—3)は、述語動詞“表示”と“经过”的目的語が、下線部“我/满心/的/愉快”、及び“进一步/的/考察”である。更に、この目的語の内部が「定語+中心語」構造のフレーズとなっており、副詞である“满心”と“进一步”が定語として、“愉快”と“考察”的中心語にかかる構造である。

1.2 『現代漢語詞典』の副詞

『現代漢語詞典』において副詞に分類されている全語を収集し、その文法的な働き方について検証を行ったが、上述の副詞“再三、满心、进一步”以外にも、『現代漢語詞典』に

³ 『小学語文』は中国の義務教育課程語文(国語)科目の教科書で、6歳から12歳の小学生を対象としており、内容は文学的価値の高い作品と必要とされる中国語の基礎知識を説明する文を主体としている。そのため、『小学語文』の中で使用された言語は、普通話(標準語)を学ぶために、方言の影響を避けることができる最も規範的・標準的な言語で、現在の中国における国語教育の基礎となっているものである。このうち、人教版は中国人民教育出版社によって出版され、1951年から2017年にかけて中国で最も広く使用されている版の『小学語文』である。使用的期間や範囲の面から最も普及しているものである。

において副詞に分類され、定語として働く語が相当数存在する。(表 1 参照)

1.3 『現代漢語詞典』の副詞とコーパスの用例

『現代漢語詞典』で副詞に分類されながらも、副詞の基本的な文法的機能の定義から外れて定語として機能する副詞はコーパス⁴にも散見される。例(4-7)

(4) 中国人已经充分认识到这一点，他们把绘画和书法视为姐妹艺术，合称为“书画”，几乎构成一个单独的概念，总是被人们相提并论。 (BCC)

(中国人はすでにこの点を十分に認識しており、彼らは絵画と書道を姉妹芸術と見なし、合わせて「書画」と呼ばれ、ほとんど単独の概念を構成し、常に人々に同列に論じられている。)

(5) 仁仁的老继父敏感而又圆滑，好像一切都在他的掌控之中，可惜被他玩弄的木偶把他当作全然的局外者。 (CCL)

(仁仁の義父は敏感で如才なく、すべてが彼の手中に收められているようだが、残念ながら彼に翻弄された人形は彼を完全な部外者と見なしている。)

(6) 油找到了，回济南还是留东营，又一个必须的选择。 (CCL)

(油が見つかった。济南に帰るか、東營に残るか、もう一つの必要な選択である。)

(7) 这无形中的一顶高帽子，才将刘不才哄得化怒为喜，“你倒说说看，怎么办法？” (CCL)
(自然とおべっかが、劉不才の怒りを喜びに変えた。)

1.4 副詞に関する先行研究—時間副詞—

副詞の基本定義に対し非典型的な働き方に対する副詞に関する先行研究は、時間副詞を考察することに集中しており、時間副詞以外の非典型的な文法機能については、十分な議論が尽くされていない。時間副詞については、例えば、彭(2006：60)は時間副詞の“永远”的文法機能を考察し、“你是我永远的表达”と“达到这种境界就会像孩子一样纯朴真诚，有一颗永远的童心”的例文を挙げ、「“永远”は定語になる時、述詞を修飾することもでき、体詞を修飾することもできる。」としている。また、王(2005：64)は、時間副詞の“曾经”を研究対象とし、“曾经+的+NP”構造になる原因と条件を考察した。「“曾经+的+NP”構造

⁴ 用例は BCC コーパスと CCL コーパスを活用し、該当する副詞が定語として機能する使用例を収集した。

BCC コーパスとは、北京言語大学が構築した『現代漢語語料庫』<http://bcc.blcu.edu.cn/>のことである。収集されている総字数は約 150 億字、現代の中国の社会言語生活を全面的に反映する大規模な中国語コーパスであり、研究面でも広く使われている。

CCL コーパスとは、北京大学中国語言学研究中心が構築した『北京大学現代漢語語料庫』http://ccl.pku.edu.cn:8080/ccl_corpus/index.jspのことである。収集されている総字数は 783463175 字、映画とテレビの作品、インターネット用語、書面語、新聞などの言語資料が含まれている。

は述語動詞が隠れた結果であり、述語動詞が隠れたせいで、本来述語動詞の状語である“曾经”は直接中心語を修飾することになり、“曾经”に状語から定語へ変化させることとなった。例えば、“曾经的泪水”は“曾经流过的泪水”的動詞フレーズ“流过”が隠れたものである。」とし、更に「“曾经+的+NP”構造になる NP は必ず『+過去』、『-存在』あるいは『+変化』の意味特徴を持っている。」と述べている。周(2007 : 50-54)は北京大学現代漢語語料庫の例文調査に基づいて、「定語になれる時間副詞はおよそ 20 ある。定語になれる時間副詞として使用頻度が高い副詞は“永远、向来、历来、一向、曾经”であり、他の時間副詞が使用される頻度は低い。」と述べている。

1.5 本稿の構成

副詞の状語になるという基本的な文法機能から逸脱する“再三、进一步、满心”のような、「定語となり得る副詞」について、その特徴と、成立条件等を考察するため、次のような段階を経て検証を進める。

以下、第 2 節では現代漢語(普通話)の基本辞書である、『現代漢語辞典』(第 7 版)から収録されている全副詞を抽出し、BCC コーパスと CCL コーパスで確認した上で定語になり得る副詞をまとめた。続く第 3 節では、前節で収集した定語になる副詞の全用例からその意味特徴を明らかにする。また、第 4 節では定語になる副詞と中心語の関係性を考察する。更に、第 5 節では、定語と中心語を繋ぎ定語のマーカーとなる“的”に対し、「定語になり得る副詞と構造助詞“的”的文法機能上の関連性」について検証する。

2. 現代漢語における副詞

2.1 『現代漢語辞典』(第 7 版)における副詞

『現代漢語辞典』(以下、すべて第 7 版を使用)では、副詞を「動詞あるいは形容詞を修飾・制限して、範囲、程度などを表す語であり、一般的に名詞を修飾・制限することができない。例えば、“都、只、再三、屡次、很、更、越、也、还、不、竟然”などである」と定義づけている。これは基本文法書、朱(1982 : 192)、劉(2001 : 210)、北京大学(2012 : 266)の定義と一致している。

『現代漢語辞典』において副詞に分類されている語の収録総数は 1180 個確認された。その全リストは巻末付録に記載する。

2.2 定語として機能する副詞

BCC コーパスと CCL コーパスを用い、『現代漢語辞典』における 1180 個の全副詞の用例を確認した結果、1180 個の副詞のうち、定語になり得る副詞は 155 個認められた。そのリストを(表 1)に挙げる。ただし、“一心”と“无心”的ような、副詞の用法のほか、形容詞や

動詞の用法もある品詞について兼類と認められる語については、副詞として機能しているとは言い切れないことから排除の対象とした。

(表 1) 『定語になり得る副詞』一覧⁵

空口、徒步、稳步、厉声、应声、随口、亲手、随手、并肩、劈头、迎头、满心、恣意、执意、锐意、有意、纵情、拦腰、死命、畅怀、趁手、全身心、强行、心心念念、迎面

无形中、无意识、有意识、照例、按时、轮番、无端、无故、竭力、奋力、如期、着实、彻夜、大肆、随处、随地、随时、就地、就近、顺便、顺势、当众、当场、互相、逐步、逐年、独自、私自，捎带、稍后、实时、整整、慨然、毅然、骤然、猝然、公然、决然、悍然、幡然、遽然、源源、飞速、草草、冷不丁、冷不防、倏忽、冷然、冒死、贸然、默默、原原本本、鱼贯、飞速

白白、徒然、陡然、不必

永远、曾经、至今、随后、当即、当时、立刻、先后、即刻、即时、立即、迅即、新近、历来、向来、一向、一直、迟早、刚刚、猝然、猛然、即将、忽然、将近、永续、于今、原本、逐渐

常常、时不时、连番、连连、屡次、屡屡、频频、接连、陆续、有时、间或、相继、再度、过于、稍稍、稍微、稍许、略微、重新、一再、再三、再度

过于、稍稍、稍微、稍许、略微、格外、进一步

仅仅、大多、总共、单独、单另、唯有、全然、一总、一例

约略、必定、必须、着实、备不住

計 155 個

この「定語になり得る副詞」155 個は、『現代漢語詞典』に収録される全副詞の 13.13% で、割合としては大半を占めるものではない。そのため、定語となる機能が、副詞の中心的役割を担っているとは言い難い。

⁵ 掲載順は、意味分類によるが、詳細は第 3 節で論ずる。

更に、この(表 1)のリストにある副詞について、それぞれのコーパスにおける定語としての使用状況を調査すると、その使用頻度は、下線部を付した副詞(表 1 下線部)に偏っていることが明らかとなった。ここには、いざれも時間を表すという意味上の共通点があり、これは、副詞の持つ意味が、定語として機能する確率に関与していることを示している。例えば、“曾经、至今、随后”のような時間で、それぞれ定語としては働く用例は 1000 例以上確認される。

一方、時間を表す副詞以外のもの、例えば、“空口”が定語になる例文は、BCC コーパスでは 9 つの例文(例文(8-16))、CCL コーパスでは 3 つの例文しか確認できない(例文(10、15、17))。このうち、2 例は重複であることから 10 例にとどまる。

更に、極端に少ない“概然”や“备不住”⁶に至っては、BCC と CCL コーパスの例文を合わせて 1 例しかない。

(8)出去后再放人，这年头，在下不信任空口的保证，你姓包的更靠不住。 (BCC)

(外に出てから人を放せ、この年になって、わたしは口先だけの約束なんて信用しないし、包さんあんたはもっと当てにならない。)

(9)无非空口的呼号，和被杀的事实一同逐渐冷落。 (BCC)

(口先だけの呼号にほかならず、殺された事実とともに冷遇されていく。)

(10)奥瑟罗我不用空口的感谢接受你的好意，为了表示我的诚心的嘉纳，我要请你立刻履行你的诺言：在这三天以内，让我听见你说凯西奥已经不在人世。 (BCC)

(オーサーロ、私があなたに口先だけの感謝をして好意を受け入れる必要はないのです。私が誠意を示すガーナーのために、あなたにはすぐに自分の約束を履行してもらいたい。すなわち、この 3 日以内に、あなたがキャシオはもうこの世にいないと私に言って聞かせてください。)

(11)楚怀王不知道张仪分化瓦解之计，图谋几句空口的承诺，就自剪羽翼和自弃依靠，而且不听智者的存亡大计，其智力的低下让人吃惊，但是想想巧舌如簧的张仪对他的利诱，就知道原来是利令智昏！ (BCC)

(楚懷王は張儀の分裂させる計略を知らずに、いくつかの口先だけの承諾を画策し、自ら補佐を切って頼りとなる者を自ら放棄し、しかも知者の存亡の大計を聞かない、彼の知力の低さは人を驚かせる。しかし口がうまい張儀の彼に対する駆け引きを考えると、もとは利をむさぼり理性を失ったためなのだとわかる！)

(12)伍尔习如果只是空口的旨意，各位爱多管闲事的大人，我告诉你们，我就敢违抗，我就不承认。 (BCC)

⁶ “备不住”は『現代漢語辞典』には方言の標記がある。

(伍爾習よ、口先だけの命令であれば、出しやばりの長官の皆さんよ、あなたたちに言っておくよ、私には逆らう勇気がある、私は絶対に認めない。)

(13)最浪漫的求婚, 不是几克拉的钻戒, 不是空口的甜言蜜语, 而是他为她做了什么。 (BCC)

(最もロマンチックなプロポーズは、数カラットのダイヤの指輪ではなく、口先だけの甘い言葉ではなく、彼が彼女のために何をしたのかということである。)

(14)被这些随口毁弃的空口的盟誓所迷惑, 简直是无可理喻的疯狂! (BCC)

(無造作に破棄された口先だけの誓いに惑わされるのは、とんでもない狂気だ!)

(15)保佑我不要做个呆子, 相信人们空口的盟誓。 (BCC)

(私が馬鹿になって、口先だけの誓いを信じたりしませんように。)

(16)这时老师的管束或强迫都是徒劳无益的, 常规教学对这类孩子来说可能收效, 空口的说教更起不到任何作用。 (BCC)

(この時は先生の束縛や強制は無駄であり、慣例的な教育がこのような子供にとって効果的な可能性があるなら、口先だけの説教はさらに何の役にも立たない。)

(17)一件好事常常只换得一声空口的道谢。 (CCL)

(良いことをしてもいつも口先だけのお礼しか言ってもらえない。)

3. 定語になり得る副詞の特徴

2 節で述べたように、『現代漢語詞典』に収録された全副詞について、各副詞のコーパスに見られる用例を確認した。これにより、副詞が定語として使われる用例は全体の 13.13%であること、そして副詞の典型的な文法機能とは言えないまでも、例外的なものではなく、一つの文法機能として一定数存在していることを証明した。実際に『小学語文』という中国語の基本構文を網羅するいわゆる「国語」に相当する小学校の教科書にも、定語になる副詞は少なからず使用されている。その一方で、副詞は状語にしかならないと総括されて、それに相反する定語となる副詞の用法については、辞書を含め、基本文法書の類が言及していないことには、教育上問題があると思われる。こうした点を解決するためには、定語となる副詞の用法について、教育上、如何に説明をするかが重要となることから、以下、収集した用例のデータから読み解くことのできる「定語になり得る副詞」の特徴とその文法機能の成立条件について検証を進める。

3.1 定語になり得る副詞と音節の関係

定語になり得る副詞は音節に対して制約がある。『現代漢語辞典』は収録された 1180 個の副詞のうち、音節の数については、单音節、二音節、三音節、四音節がある。

このうち、单音節の副詞は 281 個あり、全体の 4 分の一弱にとどまるが、すべての单音節の副詞において、定語として働く用例は認できない。例えば、单音節の“曾”は“*曾的

泪水”のような形で定語としては機能し得ない。

これに対して、「かつて」という意味の同義語で二音節の“曾经”は“曾经的泪水”的ように定語として機能する。このように、二音節の副詞は定語になることが出来る。今回の調査結果においては、定語になり得る副詞 155 個のうち、二音節の副詞が 146 個に及ぶなど、定語となり得る副詞の大半を二音節の副詞が占めることが明らかとなった。

その他、三音節の副詞は『現代漢語詞典』中 50 個、そのうち定語の用例が確認できるのは、“备不住、到头来、时不时、进一步、冷不防、全身心、无形中”の 7 個である。例文(18)の通りである。

また、四音節の副詞は『現代漢語詞典』中 7 個、そのうち定語の用例が確認できるのは、“原原本本、心心念念”⁷の 2 個のみである。例文(19)の通りである。

(18)那房子里有你童年时的床，有你青涩的回忆和泛黄的故事，还有阵阵笑声与时不时的哭声。
(BCC)

(その家にはあなたの子供頃のベッドがあり、あなたの青臭い思い出と黄ばんだ物語があり、そして笑い声と時々の泣き声がある。)

(19)梦里，有心心念念的乡土，也有那些可亲可爱的乡亲。
(BCC)
(夢の中には、いつも忘れない郷土もあるし、親切で可愛い同郷人もいる。)

つまり、定語になり得る副詞は音節に深く関係があり、单音節副詞は定語にならない、大半が二音節副詞で占められ、その他、三音節、わずかに四音節のものがあるということである。

3.2 定語になり得る副詞の意味的特徴

3.2.1 副詞の内部分類に関する先行研究

一般的な副詞の内部分類については研究者によって種類、方法など見解が異なっている。例えば、王(1954：19)は副詞を「程度、範囲、時間、可能性・必然性・蓋然性・必要性」という七種類に分けている。刑(1986：263)は副詞を「程度、範囲、時間、頻度、否定、語氣、関連」という七種類に、劉(2001：185－186)は副詞を「時間、範囲、反復・頻度、程度、語氣、肯定・否定、様態」という七種類に分けており、黃(2017：18)は副詞を「程度、範囲、時間・頻度、場所、肯定・否定、方式・様態、語氣、関連」という八種類に分けている。これらは、重複する項目もあるが、分類に統一性がなく、何より分類の基準が明確ではない。このうち、比較的系統的かつ簡潔に副詞全般を分類しているのが張(2018：17

⁷ AABB 形式であるが、『現代漢語詞典』の品詞分類通り、一つの副詞として四音節副詞とする。

－18)である。

張(2018:17－18)は、意味特徴と文法的機能を基に、1056 個の副詞を「描写的副詞、制限的副詞、評価的・注釈的副詞」の三種に分類する。それぞれの特徴として「描写的副詞は動詞の準定語として働くことができる。描写的副詞は文中における位置と順序が比較的固定的であり、一般的には中心語につくしかない。描写的副詞は主に関連する行為、性質と状態に対して記述し、描写するために用いられる。さらに、描写的副詞には方式、状態、様態、比況を表す副詞と兼類の副詞がある。制限的副詞は副詞の主体であり、文法上では一般的に状語や文頭の修飾語としてしか機能しない。制限的副詞は文中における位置と順序には一定の自由性があり、主に動作行為、性質、状態に対して区別し、制限するために用いられる。さらに、制限的副詞には接続、否定、時間、頻度、重複、程度、範囲、協同を表す副詞がある。評価的・注釈的副詞は文法上で上層部述語として働くことができる。評価的・注釈的副詞は文中における位置と順序が比較的に柔軟で、文中にあっても、文頭にあっても位置することができる。評価的・注釈的副詞は主に話し手の事件や命題に対する主観的な評価と態度を表す。」と述べている。

つまり、張氏は、副詞全般を、描写的副詞、制限的副詞、評価・注釈的副詞の三種類に分類することができるとしているが、「定語になる得る副詞」について、全面的な言及がなされていない。更に、張氏は「描写的副詞は準定語、制限的副詞は状語のみ、評価的・注釈的副詞は修飾語ではなく上層部述語」としている。「準定語」という表現について、詳細な解説はないが、本稿でいう「定語となり得る副詞」の文の文成分に相当するものと解釈される。そうだとすると、定語となり得る副詞は、描写的副詞に限定されることになるが、果たしてそうなのであろうか。

3.2.2 副詞の意味的分類と定語になり得る副詞

張(2018:17－18)では副詞全般の意味機能を大別する研究が行われていることから、まずは、大枠としての分類項目を参考に、「状語のみならず定語にもなり得る副詞」という修飾語としての副詞の機能分化の観点から、「定語になりえる副詞」の意味特徴について分析を試みた。しかし、今回の調査で得られた 155 個の「定語になりえる副詞」を分類すると、描写的副詞は 78 個、制限的副詞は 72 個、評価的副詞は 5 個に分けられ、定語となる副詞は描写的副詞以外にも存在するため見解は一致しないものであった。。

以下では、「定語になり得る副詞」について、独自の判断基準を以て分析を進める。

3.2.2.1 描写に関する副詞

定語になり得る副詞のうち、描写に関する副詞は、「中心語である名詞性成分にとっての動作行為の方式・手段を説明し、中心語の状態を描写する」ものである。例えば、以下

の例文(20)の“执意”は「(ある面に対して)固執する」という状態の描写である。例文(21)の“徒步”は「(外国人に対する)移動手段の描写である。

描写に関する副詞は、中心語の在り方を説明することができ、中心語は「どのようにあるか」を明示する。その判断基準のひとつとして、「どのようにあるか」様子を聞く質問形式に対し、応答として描写に関する副詞を用い回答できるか否かを挙げることが出来る。

(20) 书写性是画家执意的方面，画幅的诗意图呈现、浓缩形式和虚静意味，都离不开自由而富于韵律节奏的书写式线条，而这一点在陈玉圃看来，也是与西画拉开距离，保持中国画个性的关键所在。 (BCC)

(書写性は画家が固執する面であり、絵画の詩的表現、濃縮形式と虚静の意味は、自由でリズムに富んだ書写式の(輪郭)線から離れられないが、この点は陳玉圃から見れば、西洋画と距離を置き、中国画の個性を保つ鍵でもある。) (BCC)

(21) 在石豊橋村，一位老农蹲在田边休息的时候，冲着一位徒步的老外用英语打招呼的一幕给记者留下了深刻的印象。 (BCC)

(石豊橋村で、田んぼのそばでしゃがんで休んでいた農民が、歩いている外国人に向かって英語で挨拶するシーンが記者には印象的だった。)

(22) 彻夜的油烟, 彻夜的狂欢, 彻夜的喧闹, 任谁居住在这里, 谁都受不了。 (CCL)

(夜通しの油煙、夜通しのお祭り騒ぎ、夜通しの騒ぎ、誰がここに住んだとしても、誰も耐えられない。)

(23) 孙庆炎对我说起那次谈判，自信和决然的神态像一位将军指挥一场重大战役。 (BCC)

(孫慶炎は私にその交渉について話してくれた。自信と決然とした表情は將軍が重大な戦いを指揮するようなものだった。)

(24) 后来，当他瞧见它的稠密、丛集的房屋，鱼贯的人流，杂沓的交通的时候，他明白了，单是拥挤的人群就构成了一种伟大的景象，这就是这个岛屿的第一个特点。 (CCL)

(その後、彼はその稠密して密集した家、魚貫の人の流れ、雑多な交通を見たとき、彼は、単に混雜した人の群れが偉大な光景を構成していることを理解した。これがこの島の第一の特徴である。)

更に、文法的機能から見ると、一部の定語になり得る描写に関する副詞の持つ機能は区別詞の機能に近い。定語になり得る描写に関する副詞は程度副詞“很”的修飾を受けることができない。例えば、“*很彻夜的油烟”、“*很鱼贯的老外”とは言えない。また、否定副詞“不”については、修飾を受けることが出来る副詞と出来ない副詞の両方がある。例えば、“不顺便的事”、“不实时的数据”は成立するが、“*不彻夜的油烟”、“*不鱼贯的老外”は成立しない。

3.2.2.2 限定に関する副詞

限定に関する副詞とは、「中心語の時間、頻度、程度(段階)、範囲などを限定・制限する」ものである。例えば、以下の例文(25)の“永远”は時間的な限定である。例文(26)の“一再”は(出来事の)頻度の限定である。例文(27)の“进一步”は程度の限定である。例文(28)の“单独”は範囲の限定である。

定語になり得る限定に関する副詞は中心語の外延を縮小することができる。描写に関する副詞が「どのようなであるか」を明示するのに対して、限定に関する副詞は「どれであるか」を明示する。

(25)你们将是永远的伙伴把他抱在你的膝上吧。 (CCL)

(あなたたちは永遠のパートナーになり彼をあなたの膝に抱いてくれるでしょう。)

(26)那官员向兰德尔招招手，他便赶紧跟上去，想到这种一再的耽搁，不由怒火中烧。

(CCL)

(その役人がランデルに手を振ったので、彼は急いで後について行ったが、このような何度も手間取っていることを思うと、怒りを禁じ得なかった。)

(27)经过进一步的考察，他发现在长江流域有大量第四冰川活动的遗迹。

(例(3)再掲)(『奇怪的大石头』；『小学語文』三年級上)

(一步進んだ考察を経て、彼は長江流域に大量の第4氷河活動の遺跡があることを発見した。)

(28)可以说，它代表文学界单独的、出类拔萃的领域，在那儿，你只会萌生出一些比较高尚的思想。 (CCL)

(それは、文学界において、单独で群を抜いている分野を代表していると言っても過言ではなく、そこでは、高尚な考えが芽生えるばかりでしょう。)

3.2.2.3 判断に関する副詞

判断に関する副詞とは、「中心語に対する話者自身の主観的判断・評価を加える」ものである。例えば、以下の例文(29)の“必定”と(30)の“必须”は話者の判断である。

判断に関する副詞が、上述の描写に関する副詞とも、限定に関する副詞とも区別される点として、一定の質問形式に対する応答として用いることが出来ないことが挙げられる。例えば、描写に関する副詞が「どのようなである」、限定に関する副詞が「どれであるか」といった質問形式に対する応答となるのに対し、判断に関する副詞は、いずれも答えとはできない。(3.2.2.1 並びに 3.2.2.2 参照)

(29)我们反复强调这个穴位可以提升阳气，那么我们自然就可以想到这个穴位治疗的疾病也

会与阳气下陷有着必定的联系, 而最常见的恐怕就是内脏下垂, 特别是胃下垂。 (BCC)

(私たちはこのツボが陽気を高められることを繰り返し強調しており、それで私たちは自然とそれはこのツボが治す疾病も陽気の落ち込みと必ず関連性があり、最もよく見られるのはおそらく内臓の下垂で、特に胃の下垂だと考える。)

(30) 我们要多久才能完成那必须的工作? (CCL)

(私たちはどのくらいでその必要な仕事を完成することができますか。)

(31) 忘词儿是备不住的事, 看你当时有没有办法, 不怕胡说, 就怕没的说。 (CCL)

(セリフを忘れるることは起こり得ることである。あなたがその時方策があるかどうかを判断して、でたらめを言うことよりも、何も言わないことを恐れている。)

(32) “十一”长假, 难免吃香喝辣。当然, “喝辣”是个约略的说法, 酒才是辣的, 而喜欢喝甜喝酸的也大有人在。但如果說“吃香”也是约略的说法, 大概会有人不服气了: 要吃的当然是香的, 不香谁吃呢? 这还真未必。 (CCL)

(ゴールデンウイークは、おいしいものを食べたり辛いものを飲んだりして贅沢をするのは避けられない。もちろん、「“喝辣”=辛いものを飲む」というのは概略的な言い方で、辛いのは酒くらいで、甘いものや酸っぱいものを飲むのも好きな人が多い。しかし、「吃香=おいしいものを食べる」というのも概略的な言い方だとするならば、不満を抱く人もいるだろう。というのも、「食べたいのは香り高いものだが、香りがしないものなら誰も食べないのか?」これは必ずしもそうではない。)

(33) 现在你已经遇到第一个难题, 一个着实的难题——动手吧, 把发生的事就当作你的经历。

(CCL)

(今、あなたはすでに最初の難題に直面していて、それは確かに難しい問題である—着手しなさい、発生した出来事はまさにあなたの経験となるのである。)

3.2.4 定語になり得る副詞の意味的分類のまとめ

定語になり得る副詞は意味特徴によって「描写に関する副詞」、「限定に関する副詞」と「判断に関する副詞」に分けられる。それぞれの意味特徴によって、定語となり得る副詞をまとめると、以下の(表2)のようになる。定語になり得る副詞 155 個のうち、描写に関する副詞は 80 個、定語になり得る副詞全般の半数以上を占める。限定に関する副詞は 70 個あり、判断に関する副詞は 5 個しかない。

(表2) 定語になり得る副詞の意味的分類

副詞の種類	意味内容	定語になり得る副詞
描写に関する副詞(80)	方式を表す(25)	空口、徒步、稳步、厉声、应声、随口、亲手、随手、并肩、劈头、迎头、满心、恣意、执意、锐意、有意、纵情、拦腰、死命、畅怀、趁手、全身心、强行、心心念念、迎面
	状態を表す(55)	无形中、无意识、有意识、照例、按时、轮番、无端、无故、竭力、奋力、如期、着实、彻夜、大肆、随地、随时、随处、就地、就近、顺便、顺势、当众、当面、当场、互相、逐步、逐年、独自、私自，捎带、稍后、实时、整整、慨然、毅然、骤然、猝然、公然、决然、悍然、幡然、遽然、源源、飞速、草草、冷不丁、冷不防、倏忽、冷然、冒死、贸然、默默，原原本本、鱼贯、飞速
限定に関する副詞(70)	否定 ⁸ を表す(4)	白白、徒然、陡然、不必
	時間を表す(28)	永远、曾经、至今、随后、当即、当时、立刻、先后、即刻、即时、立即、迅即、新近、历来、向来、一向、一直、迟早、刚刚、猝然、猛然、即将、忽然、将近、永续、于今、原本、逐渐
	頻度を表す(22)	常常、时不时、连番、连连、屡次、屡屡、频频、接连、陆续、有时、间或、相继、再度、过于、稍稍、稍微、稍许、略微、重新、一再、再三、再度
	程度を表す(7)	过于、稍稍、稍微、稍许、略微、格外、进一步
	範囲を表す(9)	仅仅、大多、总共、单独、单另、唯有、全然、一总、一例
判断に関する副詞(5)		约略、必定、必须、着实、备不住

4. 定語になる副詞と中心語の関係性

4.1 中心語となる語

もちろん、定語の被修飾語である中心語は、名詞または、名詞性フレーズであるが、名詞性とはいっても、その意味内容には、注目すべき相違がある。

⁸ ここでいう否定とは、否定副詞のような動作行為を直接否定するものではなく、無駄、意味がない、必要性がないなど、中心語に対して虚無であることを意味するものを表す。例えば例：经过几次三番白白的努力，那只精疲力竭的领队雁便往往放弃了领队，另外一只出来尝试，又让位给第三只，第三只终于找到了风向，胜利地带着队伍前进。（BCC）（度重なる無駄な努力を重ね、、、）

一つは、単純な名詞性の語やフレーズが中心語となるもの(例(34))で、以下、便宜的に「単純名詞」と称する。もう一つは、例(35)の“考察”的ように、名詞と動詞が兼類する語(「考察」と「考察する」)が中心語を担う例であり、以下、「単純名詞」との区別のために、便宜的に「名動詞」と称する。「定語となり得る副詞」の修飾を受ける中心語には、この「名動詞」が多いことが大きな特徴の一つである。

(34)在随后的一个周末, 也即星期日凌晨刚过一点钟的时候, 电话铃声把马丁惊醒了。

(CCL)

(その後の週末、すなわち日曜日の明け1時を過ぎたばかりの頃、電話のベルがマーティンを目覚めさせた。)

(35)经过进一步的考察, 他发现在长江流域有大量第四冰川活动的遗迹。

(例(3)再掲) (『奇怪の大石头』; 『小学語文』三年級上)

(一步進んだ考察を経て、彼は長江流域に大量の第4氷河活動の遺跡があることを発見した。)

4.2 意味的分類と中心語の関係

顕著的な特徴として、「描写に関する副詞」(例文(36))と「判断に関する副詞」(例文(37))は単純名詞が中心語を担う例が大半である。

「描写に関する副詞」の例

(36)实地的情景竟然如同梦中所见一样。

(CCL)

(現場の情景は夢で見たのと同じだった。)

「判断に関する副詞」の例

(37)忘词儿是备不住的事, 看你当时有没有办法, 不怕胡说, 就怕没的说。

(例(31)再掲)(CCL)

(セリフを忘れるることは起り得ることで、あなたがその時方策があるかどうかを判断して、でたらめを言うことよりも、何も言わないことを恐れている。)

これに対し、「限定に関する副詞」については、下位分類によって状況がやや複雑である。

「限定に関する副詞」のうち「程度や頻度を表すもの」に修飾された中心語は名動詞の方が多いが、「時間を表すもの」に修飾された中心語は単純名詞が多い。

4.2.1 「限定に関する副詞」のうち「程度や頻度を表すもの」と中心語

以下の例文(38—39)の定語は、限定に関する副詞のうち「頻度を表すもの」で、その中心語は“失败”「失敗／～する」と“突变”「激変／～する」、“打击”「攻撃／～する」のような名動詞である。更に、例文(40—41)の定語は「程度を表すもの」であり、その中心語は“恐惧”「恐れ／～る」と“考察”「考察する／～する」のような名動詞である。

(38)屡次的失败已经激怒了帕坦。 (CCL)

(度重なる失敗がパタンを怒らせた。)

(39)他无法承受这些接连的突变和打击，整夜整夜地不能入睡，眼前出现幻象，耳朵出现重听。 (CCL)

(彼はこれらの相次ぐ急激な変化と攻撃に耐えられず、一晩中眠れなくて、目の前に幻が現れ、耳は難聴になった。)

(40)片刻之后，兰德尔带着稍微的一丝恐惧，离开了灵柩，加入在举行最后仪式的人流中。

(CCL)

(しばらくして、ランドルは少しの恐怖を持って、棺を離れ、最後の儀式を行う人の流れに加わった。)

(41)经过进一步的考察，他发现在长江流域有大量第四冰川活动的遗迹。

(例(3)再掲)(『奇怪の大石头』；『小学語文』三年級上)

(一步進んだ考察を経て、彼は長江流域に大量の第4氷河活動の遺跡があることを発見した。)

4.2.2 「限定に関する副詞」のうち「時間を表すもの」と中心語

その一方、「限定に関する副詞」のうち、「時間を表すもの」に修飾された中心語は単純名詞の方が多い。以下の例文の(42—44)の中心語は、いずれも単純名詞である。

(42)你们将是永远的伙伴把他抱在你的膝上吧。 (例(25)再掲) (CCL)

(あなたたちは永遠のパートナーになり彼をあなたの膝に抱いてくれるでしょう。)

(43)在随后的一个周末，也即星期日凌晨刚过一点钟的时候，电话铃声把马丁惊醒了。

(例(34)再掲) (CCL)

(その後の週末、すなわち日曜日の明け1時を過ぎたばかりの頃、電話のベルがマーティンを目覚めさせた。)

(44)解决这个问题，是我们当即的任务。

(CCL)

(この問題を解決するのは、私たちの今直ぐしなければならない任務である。)

5 副詞と構造助詞“的”

5.1 定語となる副詞と有標性

“的”は助詞の中でも、様々な機能を持つが、中でも修飾語の後に付いて定語を構成する役割は代表的かつ使用頻度の極めて高い機能である。

「定語となる副詞」155個の副詞の用例は、コーパスにおける全用例において100%の確率で構造助詞の“的”が修飾語と被修飾語中心語の間に置かれている。このことから、副詞が定語になる場合は、有標的であり、構造助詞の“的”は、副詞が定語となる必要条件である。

5.2 副詞の文法機能と“的”的関係性

副詞の文法機能は、“的”的有無に関係性がある。ここには、中心語の性質が深く関わっている。

5.2.1 中心語が単純名詞の場合

中心語が単純名詞の場合は、例文(45a、46a)のように“的”を用いる必要がある。例えば、例文(45b、46b)のように“的”を用いない場合は非文である。

(45) a. 你们将是永远的伙伴把他抱在你的膝上吧。 (例(25)再掲) (CCL)

(あなたたちは永遠のパートナーになり彼をあなたの膝に抱いてくれるでしょう。)

b.* 你们将是永远伙伴把他抱在你的膝上吧。

(46) a. 解决这个问题，是我们当即的任务。 (例(34)再掲) (CCL)

(この問題を解決するのは、私たちの今直ぐしなければならない任務である。)

b.* 解决这个问题，是我们当即任务。

5.2.2 中心語が名動詞の場合

中心語が名動詞の場合は、単純名詞とは異なり、“的”を用いる場合と用いない場合の両方の可能性がある。ただし、“的”的有無によって副詞の文法機能が異なる。例文(47)を用いその相違を示す。“的”を用いる(47a)の副詞“頻頻”で「訪問、教示、討論、論証」の一連の動作行為の頻度を表す限定に関する副詞で、定語として機能している。それに対して、“的”を用いない(47b)は副詞“頻繁”は、「訪問する、教示する、討論する、論証する」という動作が頻繁に行われることを修飾する副詞で、状語として機能している。同様に、例文(48)において、“的”を用いる(48a)は「失敗」という事件の重複を表す限定に関する副詞で、定語として機能している。それに対して、“的”を用いない(48b)は「失敗する」という動作を繰り返すことを修飾する副詞で、状語として機能している。

つまり、中心語が名動詞の場合は、“的”を用いる場合は、副詞は定語として機能し、“的”を用いない場合は、状語である。

(47) a. 接着，他的足迹遍而同济大学、橡胶研究所、合成树脂研究院、金山石化厂等，经过频频的拜访、请教、探讨、论证，他的方案终于投入了实施。 (CCL)

(その後、彼の足跡は同濟大學、ゴム研究所、合成樹脂研究院、金山石化工場などに広がっている。度重なる訪問、教示、討論、論証を経て、彼の方案はついに実施に踏み切られた。)

b. 接着，他的足迹遍而同济大学、橡胶研究所、合成树脂研究院、金山石化厂等，经过频频拜访、请教、探讨、论证，他的方案终于投入了实施。

(その後、彼の足跡は同濟大學、ゴム研究所、合成樹脂研究院、金山石化工場などに広がっている。何度も訪問し、相談し、検討し、論証することを経て、彼の方案はついに実施に踏み切られた。)

(48) a. 屡次的失败已经激怒了帕坦。 (例(26)再掲) (CCL)

(度重なる失敗はパタンを怒らせた。)

b. 屡次失败已经激怒了帕坦。

(何度も失敗することがパタンを怒らせた。)

5.3 “的”的表記に関わる問題

コーパスを含めた調査の段階で、副詞が状語となる場合、状語のマーカー“地”を用いず、定語のマーカー“的”を用いる例が散見された。以下、例を挙げておくが、主として副詞の意味が、「動作行為の程度を表す」状語の後に見られる“的”的用法である。

(49) 一下想跟他直说，一下又想还是不说的好，这种犹豫不决的样子，格外的显出了我心神不定。 (CCL)

(彼に率直に言おうと考えたり、やはり言わないほうがよいと考えたり、このようなためらいの様子は、私の心が落ち着かないことを一層目立たせている。)

(50) 他略略的点一点头，便回身去收拾他的书籍。 (CCL)

(彼は少しうなづいて、振り向いて本を片付けた。)

(51) 睡眠极其的深，几乎接近于昏睡。 (CCL)

(眠りは極めて深く、昏睡に近い。)

(52) 原本就不爱讲话的他，更加的沉默了。 (CCL)

(もともと無口だった彼は、なお一層黙っていた。)

朱(1961：2)は、“的”の分類を三つに分け、そのうち“的₁”は副詞性単位になる。」⁹とし、朱(1982：193)では「この場合の“的”は通常“地”を記す。」としている。このような“地”を用いず“的”を用いる表記上の相違については、時代、地域、借用の問題など検討の余地を残しており、“的”的働きの一つなのか否かは、今後の課題とするところである。

6. おわりに

本稿は『小学語文』に認められた副詞が定語として働く機能をきっかけとし、『現代漢語辞典』から1180個の全副詞を収集し、BCCコーパス並びにCCLコーパスを活用して、「定語になり得る副詞」155個を選出した。これにより、「定語になり得る副詞」の意味特徴、中心語との関係、有標性に関わる構造助詞“的”との関係を考察した。

結論をまとめると以下の通りである。

①副詞の文法的機能には、状語のみならず定語となる機能も存在する。このうち「定語になり得る副詞」は、一定の条件が伴い、音節と意味に深く関係している。

- ・音節との関係：单音節副詞は定語にならない。大半が二音節副詞で占められ、その他、三音節、わずかに四音節のものもある。
- ・意味的特徴との関係：「定語になり得る副詞」は「描写に関する副詞」、「限定に関する副詞」、「判断に関する副詞」に分けることができる。「描写に関する副詞」と「限定に関する副詞」がそれぞれ約半数を占め、「判断を表す副詞」はわずかである。

②副詞に修飾された中心語は、その性質から、単純な名詞性と名動詞性の二種類に分けられる。

これらの中心語の性質は、副詞の意味と関係性がある。

- ・「描写に関する副詞」と「判断に関する副詞」は単純名詞が中心語を担う例が大半である。
- ・「限定に関する副詞」のうち「頻度・程度を表すもの」の中心語は名動詞が多いが、「時間を表すもの」の中心語は単純名詞が多い。

③構造助詞の“的”との関係性については、副詞が定語になる場合は有標であり、構造助詞の“的”を定語と中心語の間に用いなければならない。

⁹ “的₂”は形容詞性単位、“的₃”名詞性単位になるものとしている。

付録

『現代漢語辞典』に収録されている副詞(全 1180 語)

A-10

挨班儿、挨次、挨个儿、按理、按例、按期、按时、按说、暗暗、暗自

B-64

八成、巴巴儿地、白、白白、白手、白嘴儿、百般、半、保不定、保不齐、保不住、备、备不住、倍加、本、本来、本能、甭、绷、比比、比较、比年、比岁、必、必得、必定、必将、必须、毕竟、边、便、遍地、别、别价、秉公、并、并肩、不、不必、不曾、不待、不单、不定、不断、不妨、不复、不够、不光、不过、不见、不禁、未免、不仅、不觉、不愧、不免、不日、不胜、不时、不枉、不消、不要、不用、不由得、不止

C-68

才、草草、参差、曾、曾经、差、插花、差不多、差点儿、差一点儿、长年、长夜、尝、常、常常、常川、常年、常时、敞开、畅怀、超、彻夜、谌、趁便、趁机、趁势、趁手、趁早、撑死、成年、成日、成天、成心、成宿、成夜、成总儿、诚、诚然、乘便、乘机、乘时、乘势、乘隙、乘兴、乘虚、迟迟、迟早、啻、重、充其量、重新、臭、初、处处、垂垂、纯、纯粹、纯然、从、从此、从来、从实、从头、从新、粗、猝、猝尔、猝然、存心

D-97

搭便、打趸儿、打头、打小儿、打总儿、大、大不了、大抵、大都、大多、大半、大凡、大幅、大概、大举、大略、大事、悉数、大率、大肆、大体、大为、大小、大约、大约莫、大致、带手儿、殆、单、单单、单独、单个儿、单另、单身、但、但凡、当场、当即、当面、当然、当头、当下、当众、当时、当真、到处、到底、到了儿、到头来、倒、倒是、倒转、得亏、登时、等闲、的确、抵死、第、迭、迭次、顶、鼎力、定、定规、定然、定准、动、动不动、动辄、都、斗胆、陡然、独、独力、独身、独自、笃、笃定、端的、短不了、断、断断、断乎、断然、断然、对脸、对面、趸、趸批、顿、顿时、顿然、多、多方、多么、多少、多说、多一半

E-2

俄而、俄尔

F-30

幡然、凡、凡是、反、反倒、反而、反复、反正、方、方才、方将、方始、仿佛、仿若、放

声、飞速、非、非常、非得、匪、分别、分头、纷纷、分明、分外、奋力、奋然、否、弗、附带

G-62

改日、改天、概、非、干、干脆、赶紧、赶快、赶忙、赶明儿、赶巧、赶早、敢、敢不是、敢情、敢是、刚、刚刚、刚好、刚巧、刚、高低、格外、个别、各、根本、跟脚、跟手、跟着、更番、更加、更、更其、公然、共、共同、共总、够、姑、姑且、古来、固、故、故意、顾、怪、怪不得、怪道、管自、惯常、光、光景、归齐、归总、贵贱、果、果不然、果然、果真、过、过天、过于

H-61

还、还是、海、悍然、毫、好、好不、好歹、好好、好赖、好生、好像、好在、合共、何必、何不、何曾、何尝、何啻、何等、何妨、何故、何苦、何苦来、何其、何须、何以、盍、狠、狠命、横、横直、横是、横竖、齁、后脚、忽、忽地、忽、忽然、胡、胡乱、互、互相、花搭着、花插着、回头、会、会、浑然、混、活、活活、活脱儿、火速、伙、或、或许、或者、霍然

J-119

几、几乎、几几乎、基、基本上、及时、及早、极、极顶、极度、极口、及其、极为、极端、即、即将、即刻、即时、亟、急忙、几曾、几多、既、加倍、加意、简直、见天、间或、间日、渐、渐次、渐渐、将、将次、将将、将近、将要、交互、交口、较、较比、较为、皆、接茬儿、接连、接着、截然、竭诚、竭力、届期、借端、借故、仅、仅仅、仅只、尽、尽管、尽快、尽量、尽先、尽早、尽自、仅、谨、尽、尽情、尽数、进一步、浸、精、经常、经行、径直、径自、净、竞相、竟、竟然、竟日、竟自、究、究竟、久久、久已、就、就便、就此、就地、就近、就势、就是、就手、就中、居间、居然、居中、举凡、巨幅、讵、更、还、好歹、几、极力、既、就、就是、俱、遽、遽然、决、决计、决然、绝、绝顶、绝口、绝对、厥、均

K-25

慨然、可、可不、可不是、可好、可可儿的、可巧、可是、克期、克日、刻意、溘、溘然、肯定、空、空口、恐、恐怕、口口声声、苦、苦口、苦苦、快、快要、宽幅

L-53

来回、朗声、老、老是、冷不丁、冷不防、冷然、愣、愣是、里外里、历、历来、厉声、立、

立地、立即、立刻、立马、立时、连、连番、连连、连忙、连胜、连夜、良、聊、聊且、聊以、了、累次、临了、临机、另、另外、溜、溜溜儿、拢共、拢总、陆续、旅、屡、屡次、屡屡、乱、略、略略、略微、略为、轮次、轮番、论说、论理

M-38

麻利、马上、蛮、满、满共、至多、满口、满世界、满心、忙不迭、冇、冒死、贸然、没、没有、每、每常、每每、美美、闷头儿、猛、猛不丁、猛不防、猛孤、猛可、猛然、弥、蔑、明、明明、莫、莫不、莫不是、莫非、蓦地、蓦然、默默、乃

N-6

难道、难道说、难怪、宁可、宁肯、宁愿

O-5

偶、偶尔、偶或、偶然、偶一

P-17

碰巧、批量、劈脸、劈面、劈手、劈头、劈胸、偏好、偏巧、偏偏、拼力、拼命、拼死、频频、平白、颇、叵

Q-45

齐、其、其实、綦、岂、岂非、岂止、起小儿、迄、汔、亟、恰好、恰、恰恰、恰巧、千万、金、前后脚儿、前脚、强行、悄悄、且、切、切切、窃、窃窃、亲笔、亲耳、亲口、亲手、亲眼、亲自、轻易、情愿、顷、穷、权、权且、全、全都、全力、全然、全身心、却、确乎

R-19

冉冉、任情、任意、仍、仍然、仍旧、日见、日渐、日趋、日夕、日益、日臻、容、容或、如期、如实、如数、如约、锐意

S-98

扫数、擅自、上紧、尚、捎带、捎带脚儿、稍、稍后、稍稍、稍事、稍微、稍为、稍许、少、少说、深、深为、审、甚为、生、生来、生生、十二分、十分、时、时不时、时常、时而、时刻、时时、实、实际上、实时、实在、实则、矢口、始、始、势、是凡、是否、适、誓死、首、殊、倏、倏地、倏忽、倏然、庶、庶乎、庶几、庶几乎、率、率尔、率然、率先、率性、双双、爽声、爽性、顺便、顺次、顺带、顺道、顺脚、顺口、顺路、顺手、顺序、顺嘴、顺

勢、说不、说话、私自、死、死活、死劲儿、死命、死力、似、肆意、似乎、素、素来、素昔、算、算是、随处、随地、随后、随即、随机、随口、随时、随手、遂、索性

T-30

太、泰、忒、特、特别、特此、特地、特为、特意、梯次、梯度、统、统共、同、通通、统统、通力、挺、通常、统统、痛、偷、偷偷、偷眼、突、徒、徒步、徒然、徒手、脱

W-57

完全、宛、宛然、万、万般、万分、万难、万万、枉自、往往、妄、微、微微、唯、唯独、唯有、惟、委、委实、未、为、未必、未便、未曾、未尝、未几、未免、未始、稳步、无不、无从、无端、无妨、无非、无故、无怪、无怪乎、无何、无乃、无任、无心、无形、无形中、无须、无须乎、无需、无意、无意识、无由、毋、毋宁、兀自、勿、务、务必、务须

X-44

悉数、悉力、悉心、瞎、先、先后、咸、险、险些、现、相、相当、相互、相继、相率、相与、想必、向、向来、像、小幅、些微、协力、心心念念、新、新近、信笔、信手、兴、兴许、行、行将、幸而、幸好、幸亏、幸喜、休、胥、虚、许、旋即、旋、洵、迅即

Y-124

雅、沿、沿路、奄、奄忽、奄然、俨然、眼见、眼看、扬长、要不、要、也、也许、业经、业已、一边、一并、一划、一旦、一道、一定、一动、一度、一发、一概、一个劲、一会儿、一共、一股劲儿、一经、一径、一口、一口气、一块儿、一力、一例、一连、一连气儿、一溜风、一溜烟、一路、一律、一面、一齐、一起、一气、一时、一手、一踢刮子、一同、一头、一味、一窝蜂、一下、一向、一小儿、一心、一一、一再、一朝、一阵风、一直、一准、一总、依次、依法、依旧、依然、已、已而、已经、已然、以次、亦、异常、益、益发、毅然、应名、迎风、迎面、迎头、应声、应时、硬、硬是、庸、永、永世、永续、永远、尤其、尤为、尤、由不、犹然、犹、犹自、有点儿、有时、有些、有心、有意、有意识、又、于今、鱼贯、預先、愈、愈加、愈益、原来、原原本本、源源本本、缘何、源源、约、約略、約莫、越、越发、越加、又

Z-106

再、再次、再度、再三、在、在先、暂、暂且、早、早日、早晚、早已、贼、乍、乍猛的、窄幅、朝夕、照常、照理、照例、照旧、照实、照直、辄、真、真个、真正、镇、争相、整整、正、正好、正经、正巧、正色、正在、执意、直、职、止、只、只得、只顾、只管、只

好、只是、指不定、指定、至今、至少、郢、终、终归、终究、终久、终年、终日、终岁、终天、终于、重点、骤、骤然、逐步、逐个、逐渐、逐年、逐日、逐一、专诚、专程、专门、准、准保、准定、着实、着意、自、自动、自古、自来、自然、自是、自相、自行、恣情、恣意、总、总、总共、总归、总是、总算、纵情、足、卒、最、最好、最为、左不过、左右、坐、坐地、终于、至、专

引用資料

《现代汉语词典》第 7 版(2016), 商务印书馆.

例文出典

BCC コーパス : 北京言語大学大数据与言語教育研究所 (<http://BCC.blcu.edu.cn/>)

CCL コーパス : 北京大学中国言語研究センター

(http://CCL.pku.edu.cn:8080/CCL_corpus/index.jsp)

课程教材研究所小学语文课程教材研究开发中心(2002)《语文》人教版, 人民教育出版社.

参考文献

日本語

北京大学中国言語文学系現代漢語教研室(2004)『現代中国語総説』(松岡榮志・古川裕監訳),三省堂.

中国語

王 力 (1954) 《中国语法理论》,中华书局.

王文娟 (2005) <“曾经+的+NP”浅析>,《江西教育学院学报》第二十六卷第五期 pp.63—65.

刑福义 (1986) 《现代汉语》,北京高等教育出版社.

黄伯荣・廖序东(2017) 《现代汉语》(增订六版),北京高等教育出版社.

朱德熙 (1961) <说“的”>,《中国语文学》第十二期 pp.1—18.
(1982) 《语法讲义》,商务印书馆.

周丽颖 (2007) <时间副词作定语分析>,《汉语学习》第二期 pp.50—54.

张谊生 (2018) 《现代汉语副词研究》(修订本),商务印书馆.

彭玉兰 (2006) <“永远”的句法功能研究>,《语言应用研究》第六期 pp.59—60.

刘月华 (2001) 《实用现代汉语语法》(增订本),商务印书馆.